

第 1 回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録

結城市教育委員会

第1回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録（要旨）

○日 時 令和5年6月29日（木曜日）午後6時30分から午後7時15分

○場 所 結城市役所 大会議室2・3

○出席委員

委員 塚田 裕史	委員 田村 俊之	委員 栗山 良一
委員 海老根 健治	委員 渡邊 孝典	委員 井上 徳伸
委員 阿良山 輝明	委員 齊藤 貴樹	委員 石崎 裕子
委員 山中 淳一	委員 山中 裕太	委員 塚本 孝一
委員 大熊 健児	委員 松浦 英修	委員 永藤 嘉重
委員 赤塚 英男	委員 池田 浩一	委員 五十嵐 隆
委員 江連 浩	委員 上野 豊	委員 小島 睦

○教育委員会事務局

教育長 黒田 光浩 教育部長 大木 博
学校教育課長 福井 恵一 主査兼小学校新設推進係長 和泉田 真
主事 石川 司 学校再編コーディネーター 杉本尚志
参事兼指導課長 湯本 勝洋

●次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 自己紹介
- 5 副委員長の互選について
- 6 議事
 - (1) これまでの経緯について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - ア ハード部門
 - イ ソフト部門
 - (3) 小中一貫校の教育目標について
 - (4) その他
- 7 その他
- 8 閉会

○要旨

1 開会

2 教育長あいさつ

- ・結城南中学校区新設校推進委員会へのご出席、また昨年度に引き続き推進委員会委員を引き受けていただき、そして新たに就任いただいた委員の皆様に重ねてお礼申し上げます。本市では本年3月に結城南中学校区新設校基本構想・基本計画を策定した。5年度は専門部会やワーキングチームにおいて具体的な内容を検討していく。『すべては将来を担う子どもたちのために』を念頭に職責を果たしていただきたい。結びに委員の皆様のますますの活躍と委員会が実りあるものとなるご祈念申し上げあいさつとする。

3 委嘱状交付

4 自己紹介

5 副委員長の互選について

- ・結城南中学校区新設校推進委員会設置要項第5条第2項により「委員の互選により定める」と規定されており、決定方法については事務局案の提示を求められた。
- ・事務局案として副委員長に「結城南中学校校長の塚田委員」を提案。拍手多数により承認された。

6 議事

(1) これまでの経緯について

【事務局説明】

(提言書)

- ・適正規模：小学校についてはクラス替えが可能な12～18学級、1学年2～3学級。中学校については教科指導のバランスがとれた教員配置が可能な9～18学級、1学年3～6学級とする。
- ・今後の適正規模・適正配置について、小中一貫教育を推進した学校運営を図ること、地域や保護者からの期待に応えられる、より魅力的な学校とするように努めること。
- ・適正配置による児童生徒等への影響を少なく配慮を行うこと。
- ・通学時の安全確保や通学時間の短縮などを考慮し、スクールバス等の導入を検討する。
- ・統廃合の学校施設の利活用検討。
- ・結城南中学校区にある五つの小学校を統合し、小中一貫教育に適した位置に新設校を設置する。
- ・結城中学校区の適正規模化として、城南小学校と城西小学校を、校地を城南小学校として統合を検討する。
- ・結城中学校区・結城東中学校区の学区再編とし、生徒数の標準化に向けた学区の見直しを検討する。
- ・結城南中学校区・結城東中学校区の学区再編とし、保護者等の意向を踏まえた学区の維持を検討する。

(方針)

- ・結城南中学校区の適正規模化について、小学校の統合は新設統合とする。児童の通学時の安全確保に考慮する。これまでの地域コミュニティを生かす。既存施設敷地の活用について検討する。この四つの考え方で早期に着手し、結城南中学校区の適正規模化、結城南中学校区・結城東中学校区の学区再編、結城南中学校区・結城東中学校区の学区再編、この3つを長期的かつ継続的に学校再編を検討していく。

(基本構想・基本計画)

- ・学力向上(習熟度別学習の充実、乗入れ事業の充実)、自己肯定感・自己重要感を高め、子供たちの社会性を育むための異学年交流、子供たちの安心感を高めるため、教育的ニーズに応じた支援の充実。
- ・具体的な教育内容として、「子どもたちの郷土愛を育むふるさと学習の推進」、「子どもたちの国際力を育む外国語活動と英語科の充実」、「子どもたちの情報社会への適応力を育むICTプログラミング教育の推進」の3つが挙げられる。
- ・目指す学校のカタチとして学校種は、小学校5校の統合による児童生徒の心のケアに配慮した小中一貫型小学校・中学校とする。
- ・校舎配置として、結城南中学校の敷地内に配置し、小学校と中学校を渡り廊下で接続する施設一体型とする。

(2) 今後のスケジュールについて

ア ハード部門

- ・令和5年度事業として結城南中学校区新設小学校建設基本設計・実施設計業務委託に必要な敷地測量等を実施する。
- ・令和5年度は建物の構造や配置、各階の基本的なレイアウト、備えるべき機能や設備、建物内外のデザイン等を基本設計図書としてまとめる。
- ・令和6年度基本設計図書に基づいて実施設計図書をまとめる。
- ・令和6年度から8年度は環境整備工事を予定。
- ・令和7、8年度の2か年で新設校校舎等建築予定。
- ・備品調査・整理計画の検討

イ ソフト部門

- ・今年度から開校までの4年間で段階的に小中一貫教育を推進する。
- ・新設校設置に向けての作業部会で作業を分担し進める。
- ・9年間を見通した教育計画を作成する。
- ・郷土を愛する人財の育成、ふるさと学習の充実

【意見】

- ・ハード部門で、株式会社フケタ都市開発と株式会社桂設計は去年と同じか。
- ・体育館のエアコン設置は検討されているのか。
- ・ソフト部門で、組織構成について、どのようなメンバー構成になっているのか。
- ・体力向上に関して、何か準備や環境を整える予定はあるのか。
- ・学校の中でPTAはどのくらい関わっていくのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・株式会社桂設計は、去年の基本構想・基本計画を受注から継続。株式会社フケタ都市

開発は指名競争入札で落札

- ・新しい学校も避難所としての活用もあると思うので、エアコンの設置は今後も検討していきたい。
- ・それぞれの専門部会で、会議の内容によって専門の方の参加を求めていく。
- ・教育課程部会、学校生活部会等で養護教諭、保健主事等が集まるのでその中で話し合いを進めていく。
- ・会議の内容によって PTA 会長等の参加を求める想定である。

(3) 小中一貫校の教育目標について

【事務局説明】

- ・義務教育課程 9 年間を見通した小中一貫の教育目標は、基本構想・基本計画からの引用で、現段階は案である。
- ・キーワードについては、地域への貢献と感謝、新しい時代の変化に対応、多様性の尊重、多方面で協働活動があるのではないかと考える。
- ・ビジョンについては、総合的な学習の時間における研究成果を進化させ、「ふるさと科」とし、地域の歴史や伝統、地域資源を生かした教育を推進することが小中一貫校の特色になるだろうと考える。
- ・教育目標から目指す教師像までは、結城南中学校の学校経営構想を参考に作成した。
- ・今後、結城南中学校の学校経営構想に、新設小学校を意識した内容を進展させ、魅力的な小中一貫校とするための指針としていきたい。

【意見】

- ・インクルーシブ教育とはどういうことなのか。
- ・車椅子等に配慮した設計になっているのか。後づけするのは大変なので、最初から対応していただけるとよい。
- ・今の南中のグラウンドは水はけが悪いので、現段階どのように検討しているのか。
- ・ビジョンの中で、何に向かって成長するのか、何をを目指すのかを詳しく知りたい。
- ・小中一貫校となると、ずっと同じ顔ぶれになり、今までよりいじめ等何らかの問題があって学校に行けなくなってしまうなど問題が多く発生するのではないかとと思われるが、その辺の対応はどのようにしていくのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・インクルーシブ教育とは、誰一人取り残すことのない、それぞれに適応し求められる教育をしていくこと。
- ・現時点では 2 階建ての校舎を想定しているが、その中でエレベーター設置は今後検討する。
- ・新設校校舎等の外構工事の中でグラウンドの改良等も多少関連すると思われるが、新設校とは別に直せるところを総体的に検討していく。
- ・検討段階であり、今後の部会の中で検討してもらう内容となる。
- ・現在いじめ等不登校、様々な形で問題が出てくると思われる。現在「フレンドゆうの木」を利用し対応しているが、この支援センターが市の北部に位置しているため、今後その支援センターを南の方へ広げていく構想もある。また教育委員会の中にスクールソーシャルワーカーというそういった子供たちの窓口がある。また市の各部署においても様々な問題に対応していく。フリースクールも含め国や県の動向も見据えな

がら、保護者の方々への対応をしていく。

(4) その他

【意見】

- ・専門部会はいつから立ち上げになるのか。
- ・専門部会の開催方法はどうか。毎回集まっての開催なのか、リモート開催もあるのか。またメンバーは決まっているのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・専門部会の第一回目は7月に開催する予定になっている。
- ・教職員が専門部会の構成員となって進めていく部会は、基本的に時間内で開催する。
- ・外部の方が入ってくる部会もあるが、毎回その方を呼ぶのではなく、協議する内容によってその方だけを集める会議として時間等を調整していきたい。
- ・基本的に専門部会は月1回程度を目安に開催予定で、その中で決まった内容や協議した内容について、推進委員会に報告という形で部会ごとに報告していく。
- ・メンバーについては、各学校の担当主任が集まり、専門的な打ち合わせをしていくことでほぼ決まっている。

7 その他

【事務局説明】

- ・会議等の公開について、本推進委員会は「結城市審議会等の設置及び運営に関する要綱」に基づき、令和4年度と同様に、会議の公開、会議録の作成等を行う。
- ・推進委員会の会報の作成について、ハード部門、ソフト部門における詳細な事項について専門部会やワーキングチームにより協議検討。専門部会等で取りまとめた内容については推進委員会に報告し、ご意見をいただいた上で、会報として取りまとめる。
- ・会議録の公開について、詳細な会議録と公開用の議事録とに分けて調整する。
- ・公開用議事録は、発言者名を省略し発言内容を要約したものを調整し、ホームページで公開する。なお、基本的には情報を公開するが、具体的な固有名詞など今後の審議に影響を与えると判断される情報については推進委員会の中で公開の有無を判断する。
- ・専門部会やワーキングチームで取りまとめた内容は、会報として保護者への配布やホームページで情報共有を図る。

8 閉会